

ENTERTAINMENT



『牧野富太郎
植物の神様といわれた男』
横山 充男／著 ウチダ ヒロコ／絵
くもん出版 2022年

子どものときから好きだった植物を追い求め、生涯を通して研究をやりとげた牧野富太郎の人物伝です。

幼いころから草花が大好きだった富太郎は、植物に対する情熱では誰にも負けることなく、やがては植物の神様といわれるまでの人物に成長します。

自分の好きなことにとことん打ち込む大切さ、もっと知りたいという飽くなき探求心。富太郎は本から知識を得るだけでなく、自然の中で観察するなど、常に学ぶ姿勢を大切にしてきました。そして、自分の出世や名誉のためではなく、日本植物学のために尽力した結果、「西欧から100年遅れ」といわれた日本植物学を発展させました。

牧野富太郎の人物伝を読むことで、好きなことに夢中になる素晴らしさを感じ、自分も何か夢中になれるものを見つけたいはずですよ。

* 関連本 *

『わが植物愛の記』

牧野 富太郎／著

河出書房新社(河出文庫) 2022年

* 関連番組 *

牧野富太郎をモデルとしたNHK連続テレビ小説『らんまん』(作／長田育恵 主演／神木隆之介)が2023年度前期に放送決定。

「ユースフルエイジ (Youthful Age)」は YA世代に送る、本・漫画・映画・音楽などのおすすめ情報を掲載した渋谷区立図書館が発行する定期刊行物です。

YA(ワイエー)とは…
Young Adult(ヤングアダルト)の略で、おおむね12歳から18歳までの人たちのことをさします。

ユースフルエイジ

2022年10月・11月号【No. 10】

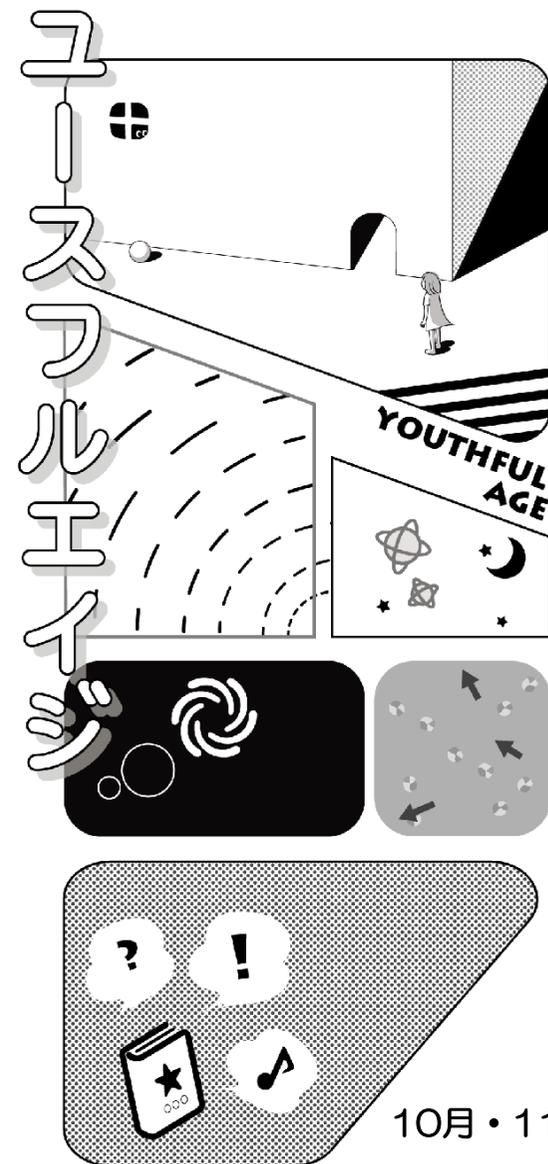
発行／編集 渋谷区立図書館
株式会社図書館流通センター

発行日 2022年10月

渋谷区立中央図書館

電話 3403-2591

住所 渋谷区神宮前1-4-1



10月・11月号
【No. 10】

SHIBUYA CITY LIBRARIES

Pick
Up!

Recommended books

あなたの好きな色、わたしの好きな色

好きと感じる気持ちは元気の素。その色を見たり、身に着けたりしたら、優しい気分になれるかも…。そんな様々な色がテーマの本を紹介します。



『いろどり屋』
十年屋と魔法街の住人たち2』
廣嶋 玲子／作 佐竹 美保／絵
静山社 2020年

主人公のテンは、色をつくりだす「いろどり」の魔法使い。おしゃべりなカメレオンのパレットと一緒に、今のあなたの気持ちに寄り添ってくれる色を用意して待っています。

大切なものを預かる不思議なお店「十年屋」シリーズの人気者、テンが主役のファンタジー。



『レモンの図書室』
ジョー・コットリル／作
杉田 七重／訳
小学館 2018年

小さい頃に母親を亡くしたカリブソは、父親と二人暮らし。母が残した小さなアトリエを「図書室」に作り替え、毎日ひとりぼっちで本を読む日々を過ごしています。ある日、そんな彼女の前に本好きな転校生メイがやってきて…。読書で磨いた想像力と本で結ばれた友情を武器に、困難と戦う少女の姿を描く。



『英語でもよめる じぶんだけのいろ』
レオ＝レオニ／作 谷川 俊太郎／訳
好学社 2018年

オウムは緑。金魚は赤。ゾウは灰色。動物にはそれぞれ変わることがない自分の色があるのに、どうして自分にはその色がないんだろう？ 悩むカメレオンが、春になって見つけた素敵な答えとは…。

原語版と詩人・谷川俊太郎氏による翻訳を、ぜひ読み比べてみませんか。

New!

『両手にトカレフ』
ブレイディみかこ／著
ポプラ社 2022年

14歳のミアは、自分が抱える重い現実を友達の誰にも話したことがない。もし話したら、世界がひどく変わってしまいそうだから。そんな中、同級生のウイルにラップのリリックを書いてほしいと頼まれたことで、世界が少しずつ変わり始めて…。



『ロンドン・アイの謎』
シヴォーン・ダウド／著
越前 敏弥／訳
東京創元社 2022年

巨大な観覧車ロンドン・アイに乗りに出かけた12歳のテッド、姉のカット、いとこのサリム。見知らぬ男に譲られた1枚の乗車券を手にも、サリムだけが観覧車に乗り込むが、一周して降りてくるとサリムの姿はなかった。



COLUMN

あなたは、どんな名前を呼ばれたい？

最近、同級生や友達から名前を呼ばれるときに、欠点をからかうようなあだ名や本人が嫌な気持ちになる呼び方をやめて、みんなが気持ちよく学校生活を過ごせるよう、ニックネームではなく、名字＋さん付けにしようという流れがあるようです。

この作品の主人公は、親の都合で今までとは違う名字を使うことになり、毎日がゆううつな中学生・明音。彼女はSNSで自分の名前が嫌いな人が集まるスレッドに出会う。そこで自分の呼ばれたい名前の名札をつけようという呼びかけがあり…。

自分が使う名前は、自分で選びたい。その想いから広がっていく新しい世界をあなたもぞいてみませんか？

『#マイネーム』
(ハッシュタグ マイネーム)
黒川 裕子／作
さ・え・ら書房 2021年

